

家庭科，技術・家庭科研究委員会

1 研究テーマ

一人一人が自ら拓く技術・家庭科の学習
～製作学習場面の学びを考える～



2 研究内容

(1) 公開研究授業

- ・期 日 平成22年11月17日(水) 13:50～14:40
- ・授業学級 常盤中学校2年3組
- ・単 元 名 Bエネルギー変換に関する技術， D情報に関する技術
LEDハイブリットライト「プレアデス」の製作
- ・授業場面 電気回路のはんだづけ(35時間中の第9時)
- ・授 業 者 安田 貢 教諭
- ・指 導 者 信州大学教育学部教授 西 正明 先生



(2) 日頃の授業の課題，生徒の実態からの指導の改善

- ・製作学習の中での生徒達の学びを考える
～生徒達は，意欲的に製作に取り組んでくれる。しかし，製作の授業は一見すると流れているが，課題が持てず実は流されてしまっていることも…多い。～

(3) 製作場面での改善の方向

本教科の特徴でもある製作の授業では，生徒はとても意欲的に取り組んでいます，まとめの段階では，「楽しかった」「疲れた」「大変だ」といった内容が書かれており，あいまいな見返ししかできず，感想で終わってしまうことがあります。生徒は一生懸命に製作をしているのですが，実際には具体的な評価につながる「学び」が実感できず，教師も生徒も流されてしまうことが課題としてあげられます。

その原因として，①課題把握が出来ていなくても授業は流れてしまうので，導入場面で課題把握を確実に行う。②作品を完成させることが一番の目標ではなく，製作を通して何を学ぶかを指導する側が意識し，生徒の学ぶ姿を取り上げ評価していく。③生徒達の実態に基づいた題材選定の必要性和，製作を通してつきたい力，伸ばしたい力を明確にしておくことが改善の視点としてあげられました。

<課題A>問題解決的な学習を，教師側で意図的に配置し繰り返し行う必要がある。

- ・生徒の実態から題材を選定していきたい。(教材の最適化)

<課題B>「課題 ↔ 評価」

- ・生徒が，考えてもわからなかったり，何を評価したらよいかわからなかったりといった状況は，「わかった」「できた」といった追究の対象が絞られていない。
- ・課題把握に効果的な問題や題材の提示方法。次の課題把握につながっていく，評価カードの工夫。グループ形態でお互いの姿を振り返る場面の設定などを活用。

◆上記の方向を考えた研究の柱として

研究の柱1 「学びのある製作学習にするための手だて」

研究の柱2 「課題を明確にすることで，具体的な評価につなげる指導のあり方」